レモンの木にカミキリムシがついた！駆除方法

レモンの木では、害虫などの樹勢で弱らは、早めの発見され被かたくと効対処な大切です。

早期発見・早期駆除が大切！
成虫はすぐに飛び立ち、見つけにくいです。幹の穴やフラスを見つけたら、早めに対処しましょう。

高つきレモン
by 栗山
2026年10月18日

1 カミキリムシとは？

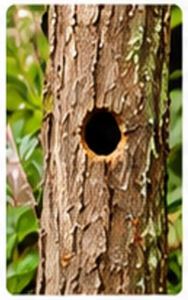
カミキリムシは、樹木の幹や太い枝に産卵し、ふ化した幼虫が木の中を食べて成長する害虫です。
レモンの木では、主にゴマダラカミキリやクワカミキリなどが発生します。

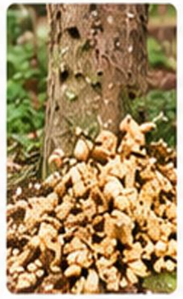

ゴマダラカミキリ
（体長2～3cm）


クワカミキリ
（体長2～4cm）

2 被害の症状

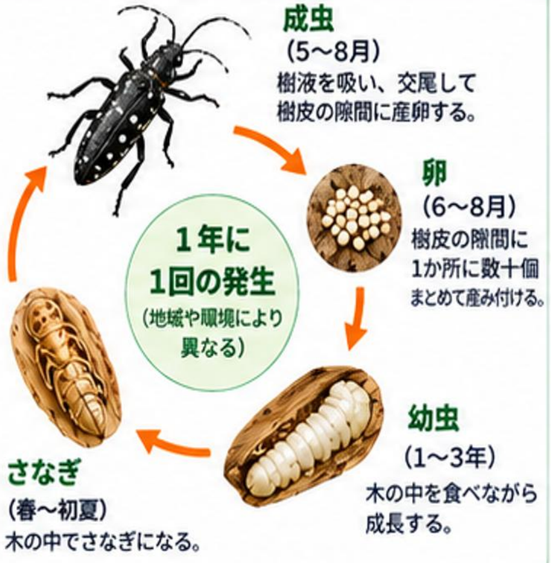
- 幹や枝に直径5～10mmの丸い穴があく
- 木くず（フラス）が出る
- 内部を食害され、樹勢が弱る
- 枝が枯れる、やがて木全体が弱り枯死する


成虫の脱出穴
（直径5～10mm）


木くず（フラス）
（茶色～白い削りかす）


食害で枯れた枝

3 生活サイクル（例：ゴマダラカミキリ）



4 駆除方法（見つけたら早めに対処）

① 成虫の捕殺

木に止まっている成虫を見つけたら、網や捕虫器で捕まえ、殺虫します。



② 卵の除去

幹の表面の隙間にある卵は、ヘラやナイフでそぎ取り、処分します。



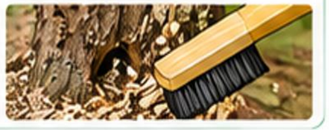
③ 幼虫の駆除

穴からフラスが出ている場合は、針金で穴の中の幼虫を刺して駆除するか、殺虫剤を注入します。



④ フラスの除去

樹皮の隙間や根元にたまったフラスは、ブラシで取り除き、周囲も清掃します。



5 おすすめの薬剤

薬剤名	特徴	使用方法・時期
スミチオン乳剤（有機リン系）	成虫・幼虫に効果が高く、浸透性がある。	5～8月に樹幹散布。幼虫駆除は穴に注入。
ベニカXネクストスプレー（殺虫・殺菌剤）	家庭用で使いやすく、成虫の防除に効果。	5～8月に樹幹に散布（発生初期に2～3回）。
トレボン乳剤（有機リン系）	成虫・幼虫に効果があり、持続性が高い。	5～8月に樹幹散布。幼虫駆除は穴に注入。





薬剤使用の注意点

- ラベルの使用方法・希釈倍率・使用時期を必ず確認する
- 周囲の農作物や環境への飛散に注意し、必要に応じて防護具を着用する

6 再発を防ぐための具体的な対策

薬剤処理後は、次の対策を組み合わせて再発を防ぎましょう。

① 防虫テープを巻く

成虫の産卵を防ぐため、幹や主枝に防虫テープを巻きます。
（例：粘着性防虫テープ、銀色反射テープなど）



巻く時期：4～10月（成虫の発生期間）

② 株元のマルチング

成虫が産卵のために根元に近づくのを防ぎ、フラスの発見も容易になります。
（例：ウッドチップ・わら・防草シート＋チップ）



年1回程度、交換して清潔に保つ

③ 定期的な点検

春～秋（5～10月）に、幹や枝、株元を定期的に観察し、穴・フラス・樹皮の傷みがないか確認します。



7 枯れ葉・病枝の駆除（正しいハサミの例）

枯れた枝や食害され弱った枝は、早めに剪定して処分します。
枝の付け根（枝の分かれ目の少し外例）で切ります。

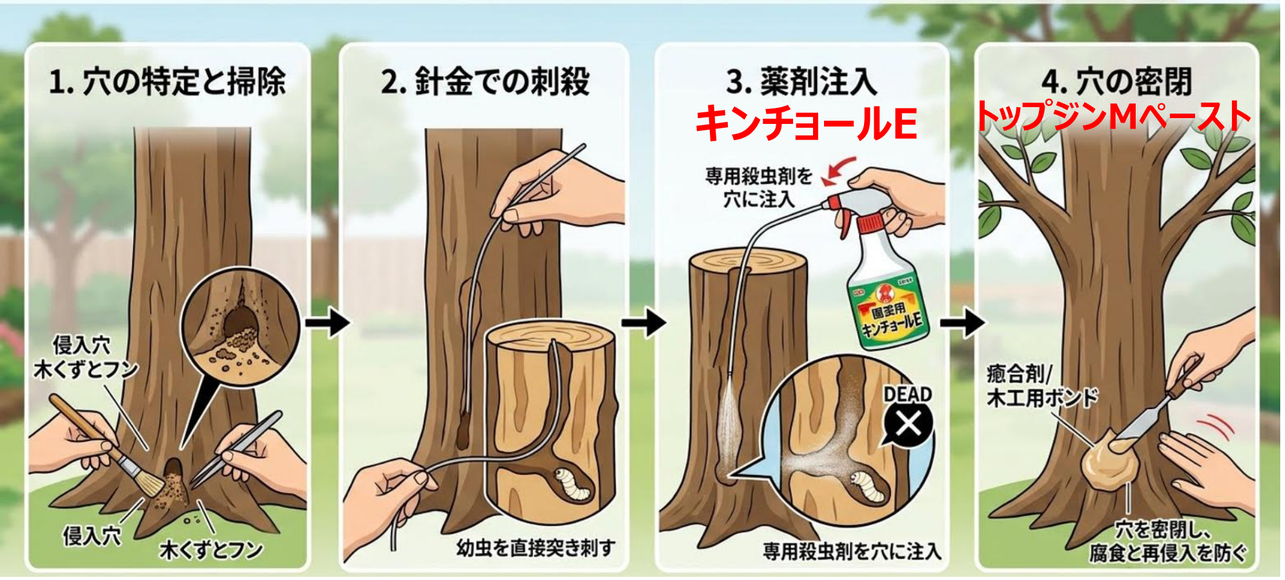

剪定ばさみ
（バイパスタイプ）
生きた枝を切るのに適しています。


太い枝は
太枝切りばさみ
（枝切りばさみ）
直径2～3cm以上の枝を切るのに適しています。

8 発生時期の目安



テッポウムシ（カミキリムシ幼虫）完全駆除の4ステップ



薬剤タイプ別の特徴まとめ

タイプ	主な目的	メリット	デメリット
①注入するタイプ（キンチョールE など）	木の中にいる幼虫の駆除	穴の奥まで確実に薬剤が届き、即効性がある	穴が見つかっていない木には使えない
② 塗布タイプ（ガットサイドS など）	株元への産卵・食入の予防	1回塗ると効果が長持ちし、一番被害が出やすい根元を守れる	ハケで1本ずつ塗るため、本数が多いと手間がかかる
③ 散布タイプ（スミチオン乳剤 など）	成虫の退治・全体の予防	広範囲の木や、高い枝までまとめて予防できる	雨が降ると効果が落ちるため、定期的な散布が必要

🛠️ テッポウムシ完全駆除の4ステップ

高つきレモン
by 栗山

1. 穴の特定とフラスの掃除

- **手順：** 木の根元や幹の表面にフラス（ひき肉状・おがくず状の粉）を見つけたら、そのすぐ上部にある小さな「侵入穴」を突き止めます。
- **コツ：** 内部に薬剤や針金が届きやすくするため、古い歯ブラシ、ピンセット、または細いマイナスドライバー等を使って、穴の周りや中に詰まっている古いフラスをきれいに掻き出してください。

2. 針金での刺殺（物理的除去）

- **手順：** まっすぐに伸ばした細い針金（鉄製の細いハンガーをペンチで伸ばしたものでも可）を、見つけた侵入穴から奥深くへと差し込みます。
- **コツ：** 幼虫は幹の中でトンネルを掘りながら上や下へ進んでいます。針金を穴の奥で何度も慎重に抜き差ししたり、探るように動かしたりして、中に潜む柔らかい幼虫を直接突き刺して退治します。針金の先端に体液が付着すれば、手応えがなくても駆除に成功しています。

3. 専用殺虫剤の注入（薬剤処理）

- **手順：** 針金による処理を終えたら、さらに確実性を高めるために「**園芸用キンチョールE**」などの**細長いロングノズル付き専用スプレー薬剤**を使用します。
- **コツ：** 穴の入り口だけでなく、ノズルを可能な限り穴の奥深く（トンネルの内部）までしっかりと差し込み、勢いよく薬剤を噴射・注入します。万が一、針金が届かない位置に幼虫が逃げていても、トンネル内を満たした薬剤で窒素死させることができます。

4. 癒合剤での穴の密閉（治療と腐食防止）

- **手順：** 駆除作業が完了したら、あいた穴をそのまま放置せず、植物用の癒合剤（「**トップジンMペースト**」など）や、応急処置として「**木工用ボンド**」を穴の中にたっぷりと流し込みます。
- **コツ：** 穴を隙間なく完全に塞いで密閉することで、傷口からの雨水の侵入を防ぎ、雑菌や木材腐朽菌による内側の腐食（木がボロボロになる病気）を徹底ガードします。また、木が自らの力で肉巻き（癒合）して穴を修復するのを大幅に手助けします。

💡 駆除作業後のポイント

- **新しいフラスが出ないか監視：** 穴を塞いだ後、数日間は近くの地面や別の場所に新しいフラス（おがくず）が落ちてこないか毎朝チェックしてください。もし新たなフラスが溜まる場合は、まだ別の幼虫が潜んでいるか、仕留め損ねているサインのため、再度ステップ1から行います。

- **樹勢を労るケア：** 内部を食害された木は、水分や栄養を吸い上げる力が一時的に低下しています。駆除に成功した後は、幹に負担をかける**強い固形肥料は控え、薄めの液体肥料（メネデールなどの活力剤も効果的です）を水やり代わりに与えて、木全体の回復を優しく促して**あげましょう。

カミキリムシ　再発防止の6ステップ

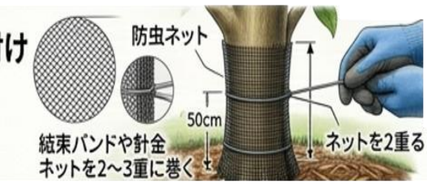
STEP 1: コーティング剤の塗布
春先（4月～5月）

トップジンMペースト
テッポウムシ予防樹脂フィルム



STEP 2: 防虫ネットの巻き付け

地植え5年目、直径10cm
ネットを2～3重に巻く



STEP 3: 風通しの改善
初夏～夏（6月～8月）

下枝とひこばえを剪定し、
風通しと日当たりを確保する



STEP 4: 雑草のこまめな管理

株元を常にて清潔に保ち、
雑草をこまめに抜く



STEP 5: 定期的な点検
春～秋（5月～10月）

春～秋（5～10月）に、幹や枝、
株元を定期的に観察し、穴・フラス・
樹皮の傷みがないか確認します。



STEP 6: 傾きの固定
春先（4月～5月）

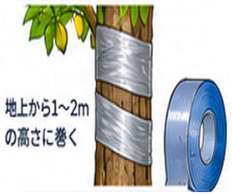
頑丈な支柱で固定し、
幹に防虫ネットを巻く



塗布タイプ（殺虫剤）
ガットサイドS

巻く時期：4～10月
（成虫の発生期間）

防虫テープを巻く
成虫の産卵を防ぐため、幹や
主枝に防虫テープを巻きます。
（例：粘着性防虫テープ、
銀色反射テープなど）



負担軽減（実の間引き）

全体の半分以上の実は
摘み取って、木を軽くする



株元のマルチング
成虫が産卵のために根元に
近づくのを防ぎ、フラスの
発見も容易になります。
（例：ウッドチップ・わら・
防草シート＋チップ）



見通しを良くする

地際の雑草を常に取る



カミキリムシ再発防止の6ステップ・詳細解説

by 栗山 高つきレモン

【STEP 1】コーティング剤の塗布（産卵・食入防止）

- **やること：** **春先（4月頃）**に、幹の根元（**地面から約50cmの高さまで**）に予防塗布剤を刷毛で塗ります。**8月頃にも再度塗布**すると効果が持続しやすくなります。
- **具体的な効果：** 代表的な薬剤である**ガットサイドS**やテッポウムシ予防樹脂フィルムを塗ることで、成虫が卵を産み付けるために樹皮をかじるのを物理的・化学的にブロックします。また、傷口がある場合は**トップジンMペースト**などの癒合剤を塗って保護するのも効果的です。

【STEP 2】防虫ネットの巻き付け（物理的ガード）

- **やること：** 地面に近い株元から、**高さ約50cm**程度まで**防虫ネット**（網目4mm以下）を**2～3重にふんわりと巻き付け**、結束バンドや針金で固定します。
- **具体的な効果：** カミキリムシの成虫は、一番樹皮が柔らかくて潜り込みやすい「地際（地面と幹の境目）」を狙って飛来・産卵します。ここを物理的に覆うことで、成虫の侵入を完璧にシャットアウトできます。幹が太くなる（**直径10cm前後**）と狙われやすくなるため、この二重ガードがとても効きます。

【STEP 3】風通しの改善と実の間引き（樹勢の維持・負担軽減）

- **やること：** 木の根元から勢いよく生える「ひこばえ（ヤゴ）」や、下方の混み合った不要な枝を剪定ばさみでカットし、**株元の風通しと日当たりを良くします**。レモンなどの果樹の場合、全体の半分以上の実を若いうちに摘み取る「間引き（**摘果**）」を行います。
- **具体的な効果：** カミキリムシは暗く**ジメジメした環境を好む**ため、風通しを良くするだけで飛来を大きく減らせます。また、実を減らすことで木自体のエネルギー消費を抑え、テッポウムシの食害から体力を回復させる（樹勢を強く保つ）ことができます。

【STEP 4】雑草のこまめな管理と株元のマルチング（環境整備）

- **やること：** **株元の雑草をこまめに抜いて常に清潔に保ち**、その後、ウッドチップやわら、防草シートなどを**厚さ5～10cm**ほど敷き詰めて根元を覆います（マルチング）。
- **具体的な効果：** 雑草が茂っていると成虫の隠れ家になってしまいます。マルチングを行うことで雑草の発生を抑え、成虫が土や地際に近づくのを防ぎます。さらに、万が一幼虫が入ってしまっても、根元がすっきりしているため**「フラス（木くず）」の発見が劇的に早くなります**。

【STEP 5】定期的な点検（早期発見の仕組み）

- **やること：** 成虫が活動・産卵する春～秋（**5月～10月**）にかけて、幹、枝の分岐点、そして特に「株元」を定期的に観察します。
- **具体的な効果：** 「樹皮に不自然な傷や**小さな穴**がないか」「根元に新しい**フラス（木くずとフン）**が落ちていないか」をチェックします。この時期に月1～2回、ぐるりと木を一周見る習慣をつけることで、万が一再発しても初期段階で**園芸用キンチョールE**等でのパッチ処理が可能になります。

【STEP 6】傾きの固定（物理的安定）

- **やること：** 台風や強風、または実の重みで木が傾かないよう、頑丈な**支柱**（八の字固定など）を設置してしっかりと木を支えます。
- **具体的な効果：** 木が傾いたりグラグラしたりすると、根元や幹の皮に亀裂や隙間が生じ、そこからカミキリムシが侵入しやすくなります。支柱でどっしりと固定し、さらにその上から防虫ネットなどを連動させることで、外的ストレスから木を守り、防衛力を最大に高めます。

殺虫剤：駆除と予防の目的（ステージ）に合わせて選ぶのが最も重要です

高つきレモン
by 栗山

🛠️ 1. 駆除：すでに穴がある：【注入タイプ】（最優先）

木の根元にフラス（おがくず）が落ちていて、すでに**侵入穴**が見つかっている場合は、**穴の中に直接薬剤を届かせる注入タイプ**を選びます。最も確実性が高く、ピンポイントで幼虫を仕留められます。

- **選ぶポイント：**
  - 必ず**「細長いロングノズル」**が付いているものを選んでください。
  - ノズルの先端が「3方向」などに拡散して噴射するタイプだと、複雑に曲がった内部のトンネル全体に薬液が行き渡りやすくなります。
- **代表的な薬剤：**
  - **園芸用キンチョールE（住友化学園芸）**：テッポウムシ対策の王道スプレーです。3方向噴射ノズルを採用しており、柑橘類、バラ、カエデ類など幅広い植物に登録があります。
  - **カミキリムシ専用キラー**：こちらも同様にノズルで穴に直接注入するエアゾール剤。

🛡️ 2. 予防：卵を産まさない：【塗布（コーティング）タイプ】

「毎年カミキリムシがやってきて卵を産まれる」「今年は絶対に被害を防ぎたい」という場合は、**幹の根元に直接塗って産卵を防ぐ塗布タイプ**が適しています。

- **選ぶポイント：**
  - 成虫が樹皮をかじるのを防ぐ「**忌避効果**」があるもの、または物理的に薄い膜を張って産卵を防ぐ「被膜タイプ」があります。
  - ハケや筆で、地面から50cmほどの高さまでの幹にぐるりと塗って使用します
- **代表的な薬剤：**
  - **ガットサイドS（住友化学）**：多くの農家や果樹園でも使われている非常に有名な忌避・食入防止剤です。
  - **テッポウムシ樹脂フィルム**：幹の表面に頑丈な塩化ビニル等の皮膜を作り、成虫の顎での食害や産卵を物理的にシャットアウトします。

🪲 3. 広範囲の予防や成虫を退治したい場合：【散布・乳剤タイプ】

庭木が何本もあり、全体的にカミキリムシ成虫の飛来を予防したい場合や、見つけた成虫をその場で退治したい場合は、**水で薄めて噴霧器で撒く「乳剤・水溶剤」**や**「ハンドスプレー」**を選ぶ。

選ぶポイント：

- カミキリムシの成虫が活動を始める**5月下旬～7月頃**に、あらかじめ幹や枝葉に散布しておくことで、飛来した成虫が木をかじった際に退治できます（残効性）。
- ※一般的な「オルトラン粒剤」などの土に撒くタイプは、カミキリムシ（テッポウムシ）に対しては効果が弱いため、必ず「散布用」として登録がある農薬を選んでください。

- **代表的な薬剤：**
  - **スミチオン乳剤**：定番の園芸農薬で、成虫の発生初期に予防散布することで効果を発揮します。
  - **ダントツ水溶剤**：浸透移行性があり、散布しておくことで数週間の高い残効性が期待できます。
  - **ベニカXファインスプレー / ケムシジェット**：成虫に直接吹きかけることで速効退治が可能な家庭用スプレーです。